

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第一小学校 第一学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<p>①文字の読み書きに関する能力に課題が見られ、1学期末の時点でひらがなの読み書きが定着していない児童が1割程度いる。</p> <p>②筆圧が弱いなどの理由で、字の形が整っていない児童が学級の1割程度いる。</p> <p>③相手の話を遮ったり、黙っていても内容を聞き取れていなかったりして、話を聞くことに課題の見られる児童が学級の2割程度いる。</p>	<p>①についての手だて 文字カードや簡単な音読教材で、文字と音を結びつけ、一文字ずつの読みではなく、文字のまとまりを一つの単語として認識できるようにし、音読へつなげる。⇒簡単な音読がつかえることなくできる児童7割を目指す。 ・図書の時間を確保し、絵本や読み物を通じて文字に触れる機会を取る。</p> <p>②についての手だて ・指先を使う機会（折り紙・粘土など）を作り、体を使って空書きや指書きをさせて、感覚を養う。</p> <p>③についての手だて ・読み聞かせや、発言の後に「なんて言っていた？」と確認するようにして、聞くことへの意識付けを行い、聞き書きの機会を作っていく。 ⇒聞くテストで80点以上の児童8割を目指す。</p>	
算数	<p>①数の概念や足し算、引き算の定着が不十分な児童が1割程度見られる。</p> <p>②具体物から抽象化して図や数として表したり、文章問題を読み取って場面を理解して正しく立式したりすることに課題の見られる児童が2割程度いる。</p>	<p>①についての手だて ・数の概念の定着や足し算、引き算の定着のためにブロックなどの半具体物の操作を十分に経験させる。（各単元1回以上）</p> <p>②についての手だて ・文章を読解する力を付けるため、言葉の意味や格助詞を確認する。正しく立式するために何算になるのかキーワードを見付けたり、場面をイメージして図や操作と結び付けたりする授業を行う。（各単元1回以上） ⇒テストの思考判断の分野で8割以上の正解がクラスの7割を目指す。</p>	
体育	<p>①運動における基礎的な動きの獲得や運動を継続する体力に課題の見られる児童が2割程度いる。</p> <p>②ルールを理解できず、うまく活動に参加できていない児童が2割程度いる。</p>	<p>①についての手だて ・どの運動も運動量を確保できるよう場や教材を工夫し、基礎的な動きを十分身に付けさせる。（各単元）</p> <p>②についての手だて ・ねらいやルールを簡単なものから段階的にステップアップしたり、実際にやって見せたりし、どの子も運動の楽しさを味わえるようにする。（各単元）</p>	
道徳	<p>①話のあらすじを捉えられず、ねらいとする道徳的価値から離れてしまう児童が2割程度いる。</p> <p>②登場人物の言動についての善悪は理解できるが、自分と結びつけて振り返ることに課題の見られる児童が2割程度いる。</p>	<p>①についての手だて ・挿絵を活用して資料を提示し、場面ごとに丁寧に確認することで、道徳的価値から離れないよう支援する。（毎時間）</p> <p>②についての手だて ・友達と話し合ったり、ワークシートに書いて自分を見つめたりする時間を十分に確保する。（毎時間）</p>	

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第一小学校 第二学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<p>①漢字テストの平均点は約90点と、概ね定着している児童が多い。反面、学習に取り組む際の正しい姿勢が身に付いておらず、十分な筆圧で正しく文字を書くことができていない児童が1割程度いる。</p> <p>②語彙力が不足しており、自分の考えや気持ちを文章で適切に表現することに課題の見られる児童が1割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の習得については、練習からテストまでの一連の流れを一週間の中にきちんと位置付けし、ルーティン化することで、定着を図る。同時に、必要に応じた個別指導を丁寧に行う。 <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> 学んだことを生かした構成を考える文章を、各単元で1回以上書くようにする。 	
算数	<p>①たし算やひき算の定着に課題の見られる児童が1割いる。</p> <p>②問題場面を正しく捉え、立式することに課題の見られる児童が2割いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じてブロックなどの半具体物による操作を十分に経験させる。 <p>②についての手だて</p> <p>単元に一度は、文章と図や操作を結び付ける活動を取り入れ問題場面を正しく捉えられるようにする。</p>	
体育	<p>①ゲームの事前アンケートで「運動が苦手、まあまあ苦手」と回答する児童が延べ5名いた。</p> <p>⇒ゲーム「スローインベースボール」、水遊びなどで、効果的な場の設営や教材を取り入れることで、夢中になって運動に取り組む姿が見受けられたが、意欲をさらに高められるよう「全員ができた」「全員で楽しめた」活動を目指す必要がある。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> 苦手、やや苦手と回答する背景を探り、どの子も意欲的に取り組める活動を取り入れる。(各単元) 入り交じり型ゲーム「シュートボール」や運動や表現運動の海賊のストーリー仕立ての実践などを通して、運動に興味をもって取り組めるようにする。 <p>⇒事後アンケートにおいて、「運動を楽しめた」と回答する児童を9割にすることを目指す。</p>	
道徳	<p>①ねらいとする道徳的価値へ思考が進まないことのある児童が3割いる。</p> <p>⇒話したいことを話す児童がまだ多く、他の友達の発言を受けた思考が苦手だと考えられる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書についてのワークシートを使用するだけでなく、考えさせたい道徳的価値によってはオリジナルのワークシートを作成し、思考が深まりやすいように工夫する。 導入で自身の生活をふり返る発問をしてから本時の教材に入ることで、ねらいとする道徳的価値を自分事として捉えることができるようになってきている。また、板書で児童の意見を可視化することで、考えの深まりや教員による評価材につなげることができたため、それらの手立てを今後も継続する。 	

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第一小学校 第三学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	①既習漢字の定着が十分でなく、漢字を正確に覚え、書くことに課題の見られる児童が5割程度いる。 ②思いや考えを、文章に表現することに課題の見られる児童が3割程度いる。	①についての手だて ・毎日、授業開始後10分間取り入れる。 ⇒漢字小テスト80点以上取れる児童を8割にすることを指す。 ②についての手だて ・国語週1回、ふりかえり体育日記週2～3回取り組む。 ⇒バツと書き始められる児童を8割にすることを指す。	
算数	①既習事項をもとに考え、図や言葉を用いて表現することに課題の見られる児童が6割程度いる。 ②かけ算九九を正確に活用してわり算を解くことに課題の見られる児童が3割程度いる。	①についての手だて ・文章と図や操作を結びつける活動を十分に行わせたり、考えを記述させたりする活動を繰り返し行う。 ⇒問題や式の意味を図や言葉で表すことのできる児童を6割にすることを指す。 ②についての手だて ・授業の開始5分を使い、掛け算を練習するドリルタイムを取り入れる。 ⇒九九をミスなく解答できる児童を9割にすることを指す。	
体育	①自分の学習課題を把握することに課題の見られる児童が2割程度いる。	①についての手だて ・自分の動きをタブレットで録画して客観的に見ることで、自己の課題を把握できるようにする。 ⇒自分の学習課題を言語化できる児童を8割にすることを指す。	
道徳	①教材に出てくる人物の心情や様子などを考え理解することはできているが、自分自身のことに課題の見られる児童が4割程度いる。 ②自分の考えをもち、進んで交流はするが、人の考えに共感したり、自分の考えを広げたりすることに課題の見られる児童が5割程度いる。	①についての手だて ・身近なこととして考えられるような発問の工夫をする。また、児童の実態に合った資料提示をする。(毎時間) ②についての手だて ・考えを交流する際、共感した時は頷く、人の考えに言葉を返す等の反応をする習慣を身に付けられるように声掛けをする。(毎時間)	

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第一小学校 第四学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<p>①漢字ミニテストや確認テストでの平均点が80点に到達していないことがあった。⇒新出漢字の学習ペースの調整が不足していたものと考えられる。</p> <p>②授業内で文章を書くことや、家庭学習での記述型の課題を出すことで書く力は少しずつついてきている。しかし、文章を書くことに苦手意識をもつ児童が3割程度いる。</p> <p>③文章を書く活動において、既習の漢字を使う習慣が身に付いていない児童が5割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他教科の学習と関連させ、1学期の既習内容を2学期以降も繰り返し扱い、反復練習ができるようにする。 <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く活動を教科横断的に取り入れ、文章を書くことに慣れるようにする。 <p>③についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃の授業でのノート指導などで既習の漢字を使うよう添削やこまめなチェック等、随時指導を行う。 	
算数	<p>①大きな数の仕組み、わり算の筆算に課題の見られる児童が2割程度いる。</p> <p>②分度器の使い方の理解に課題が見られる児童が8割程度いる。</p> <p>③既習事項をもとに考えたり、それを図や言葉を用いて表現したりすることに課題の見られる児童が3割程度いる。</p>	<p>①～③に共通する手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入で繰り返し練習の時間を確保する。 ・個々の理解の状況に応じて、前学年の内容を復習する時間を確保するなど、段階的な復習を適宜行う。 ・家庭学習で反復的に学習できるように課題の出し方を調整する。 ・問題解決型の学習過程を授業で多く取り入れ、その中で必ず、既習の学習や、図・式・表を使った考えを使うようにする。 	
体育	<p>①体育の初めの5分程度で、一小パワーアップタイム（ダッシュ、スキップ、動物歩きなど）を導入することで、基礎的な身体能力が十分と見られる児童が7割程度まで上昇している。</p> <p>②体育の学習後に毎回体育日記の取り組むことで、自分のできたところ・できなかったところ、友達の良いところなどを進んで見付け、次回実践しようとする児童が8割程度にまで増えた。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元によって運動の内容を取捨選択し、より学習効果が高いものになるようにする。 <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が書いた体育日記の内容を確認し、学級で共有することで、どのように書いたらよいかを例示し価値付け、学級全体で内容の質を高めていく。 	
道徳	<p>①必要に応じて役割演技の活動を取り入れたことで、考えるべきことが焦点化され、ねらいとする道徳的価値に興味・関心をもちながら学習に取り組むことができた。</p> <p>②自分の考えに自信がもてず、発言がクラスの5割程度の児童に偏りがちになる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割演技等の活動のさせかただけでなく、葛藤を引き出すような発問を工夫し、活発に意見を出し合える話し合い活動に取り組めるようにする。 <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや友達の考えをいつでも示すことができるように、三色の三角コーンを使用する。 	

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第一小学校 第五学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<p>①「要旨」や「主題」を読み取ることに課題の見られる児童が2割程度いる。</p> <p>②日常的に読書に親しむ児童の割合が少なく、読書習慣のない児童が2割程度いる。</p> <p>③漢字や言語事項の習得に個人差が大きく、課題の見られる児童が2割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明文では、段落構成と繰り返し使われる重要な言葉を押さえて読むことを繰り返し指導する。物語文では、叙述をもとに登場人物の心情を考えることを大切にする。 <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隙間読書の推進(テストが終わった後、給食準備時間等)、読んだ本を記録する取り組み(夏休みの課題で1000ページを目標に読書をして記録する)、ビブリオバトルの開催など、本に親しむ機会を多くもつ。 <p>③についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字小テストに向けて練習の徹底を図る。学期のまとめテストで平均80点を超えるように指導・助言をする。新出漢字の学習において、習得のための練習だけでなく、言葉の意味を調べたり自分で文章を作ったりする活動を取り入れる。 	
算数	<p>①「数と計算」に関わる領域に課題がある。特に、あまりのあるわり算や、小数の入ったかけ算及びわり算が苦手な児童が多く、1～2割程度いる。</p> <p>②「量と測定」領域に課題がある。特に単位量当たりの概念理解や、計算が苦手な児童が多く、課題の見られる児童が1～2割程度いる。</p> <p>③文章問題において、根拠なく立式する児童が多い。問われていることを数直線や図等に整理するなどして、根拠をもって立式することに課題の見られる児童が2割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習、朝学習、授業冒頭5分程度の時間で、繰り返し割り算に重点を置いた反復練習を、計算ドリル・ベーシックドリルを活用して行う。 <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の理解の状況に応じて、前学年の内容等、段階的な復習を適宜行う。 <p>③についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し式の意味を考えさせ、「なんとなく」ではなく「根拠をもって」立式できるようにさせる。そのために、ペアやトリオで式を考えたり、説明し合ったりする活動や、全体で共通確認した解き方を使って、習熟を図る問題を解いたりする活動を取り入れる。また、間違えた問題は、必ず解き直すようにさせる。 	
体育	<p>①自身やチーム等の課題に合わせた練習を、選んだり考えたりする事に課題が見られる児童が1割程度いる。</p> <p>②ICTの効果的に活用し、自身の課題改善に活用できる児童が7割程度にとどまっている。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身に付けたい力と現状の分析を、チームタイムや学習カードを活用して、繰り返しさせていく。また、学習カードに練習方法や場を提示し、どの練習でどの力が身に付くのかを可視化させる。 <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずはタブレットの使用回数や使用場面を増やし、その中で児童自身が自身の課題改善に有効性を実感できるようにする。 	
道徳	<p>①教材や自分がこれまでもっていた価値観に引っ張られ、多面的・多角的に考えを広げることに課題が見られる児童が2割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値項目に関係する考え方について、授業を通して変容が見られたか分かるように、発問やワークシートを工夫する。 ・価値観の広がりや、価値理解の状況について振り返ることができるようにワークシートを工夫したり、ループリックを用いた振り返りを取り入れたりする。 	

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第一小学校 第六学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<p>①「読むこと」に苦手をもつ児童が3割程度おり、「要旨」や「主題」を読み取ることに課題がある。 ⇒叙述の中から根拠となる表現を探したり、キーワードを捉えたりする力が苦手だと考えられる。</p> <p>②漢字や言葉の習得や活用を苦手としている児童が3割程度おり、短期的に行う小テスト以外の50問テストや作文などへの活用に課題がある。 ⇒長期記憶や、言葉や漢字とその意味を合わせて理解することが苦手だと考えられる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ここに書いてあるように」といったように、叙述にある根拠をもとに考える練習を繰り返し行う。その際、叙述に線を引かせたり、言葉に印を付けたりさせながら、学習活動を進める。 <p>⇒単元末テストにおける「読むこと」における正答率85%を目指す。</p> <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書けること」と「読めること」を分け、繰り返し練習する。 ・漢字の練習方法を工夫し、1度練習したら終わりではなく、繰り返し書く練習に取り組めるようにする。 ・日記や振り返りなど、国語科だけでなく、「書く」活動を日常的に取り入れる。 <p>⇒学期末の漢字50問テストの正答率85%を目指す。</p>	
算数	<p>①「割合」に関わる領域に課題がある児童が8割程度いる。</p> <p>②領域に関わらず、文章問題において根拠をもって立式することに課題のある児童が3割程度おり、計算問題に比べて正答率が3割程度下がる。 ⇒計算の意味や二量の関係をイメージしたり、数量を関係図や数直線、表などに整理したりすることが苦手だと考えられる。</p>	<p>①と②に共通する具体的な手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文を把握する段階で数値が表す意味を捉えやすくする発問をしたり、4マス関係図を中心に数値を整理したりする活動を取り入れたりと計算の意味や二量の関係をイメージしながら立式できるようにする。 <p>⇒単元末テストの正答率70%以上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間のどこかで、今日のねらいに対する自己評価をさせることで、自分は何ができて、何ができなかったという自己評価力(メタ認知)を高められるようにする。 <p>⇒この振り返りをもとに、教員が補充的な指導を取り入れたりと、次時の授業構成の工夫をしたりする。</p>	
体育	<p>技能を高めたり、チーム力を高めたりするために、現状の課題を明確に捉えたり、課題を乗り越えるために必要な練習を選択したりすることに課題の見られる児童が3割程度いる。</p>	<p>①タブレット撮影機能を活用して、自分の動きを見る機会を増やす。また、授業時間内だけでなく、振り返りの際に撮影した映像を見返すことができるようにすることで、自己評価力(メタ認知)を高められるようにする。</p> <p>②練習の意図やそれによって高まる技能を言葉掛けや掲示によって伝える。課題を乗り越えるために必要なことは何かを意識した練習の選択ができるようにする。</p>	
道徳	<p>①自分の考えをもつことやそれを伝えることが学びのゴールになりがちな児童が半数程度いる。 ⇒自分の考えと友達のと比較したり、自分の考えを変容させたりすることが苦手だと考えられる。</p> <p>②教材に書かれている言葉や自分がこれまでもっていた価値観に引張られた発言が多くなりがちで、多面的・多角的に考えを広げることに関与する児童が3割程度いる。</p>	<p>①についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で考える時間に加えて、ペアや立場の似た児童同士、立場の異なる児童同士で話し合う活動を取り入れ、多面的・多角的な見方、考え方に触れることができるようにする。(ノートや発言で検証する) ・毎時間1回以上は一人一人が考えを表出できる活動を取り入れる。(ノートや発言で検証する) <p>②についての手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業冒頭で本時に考える道徳的価値について、これまでもっている考えや経験を表出させる場面を設定する。そして、終末において冒頭考えていたことと、今考えていることを比較し、価値観や見方の変化を実感できるように振り返らせる。 	